

第4次三田市総合計画基本構想 (案)

1 総合計画と三田市のまちづくりについて

(1) 総合計画とは

総合計画とは、まちづくりの指針となるもので、まちづくりの方向やそれを実現するための取り組みなどを定めるものです。総合計画は、三田市まちづくり基本条例に定める原則やルールに基づき取り組みを進めます。

(2) 総合計画によるまちづくりのあゆみ

三田市では、これまで、3次にわたる総合計画に基づいて、次のとおりまちづくりを行ってきました。

＜三田市総合計画の期間（昭和56年度～平成2年度）＞

急激な高度経済成長により、昭和30年代後半から大都市の過密や公害などが深刻化し、自然豊かな郊外生活へのあこがれが強まる中で、昭和44年北摂ニュータウン（現“神戸三田”国際公園都市北摂三田ニュータウン）計画が発表されました。これを受け、北摂三田ニュータウンへの入居に対応するため、青野ダム建設や福知山線の複線化、高速道路の整備など、大規模プロジェクトをはじめ、道路や上下水道など都市の基盤となる施設整備を進めてきました。

＜三田市新総合計画の期間（平成3年度～平成13年度）＞

その後、ニュータウンなどへの急激な人口増加に伴う行政需要にあわせて、自然環境の保護に配慮しながら、学校施設、市民センター、市民病院、総合福祉保健センター、クリーンセンター、消防庁舎などの整備を行ってきました。また、関西学院大学神戸三田キャンパス、県立人と自然の博物館など高等教育機関の誘致・開設を図るとともに、都市の核となる地域（三田駅前、シビックゾーン、センチュリーパーク）の整備に着手するなど、都市機能の形成に努めてきました。

＜三田市第3次総合計画の期間（平成14年度～平成23年度）＞

第3次総合計画では、それまでの社会資本整備の要請に対応するまちづくりから、まちの魅力を高め、暮らしの質の向上を重視したまちづくりへ転換し、文化活動等の拠点となる総合文化センターを整備するとともに休日応急診療センターや消防西分署・東分署の整備などにより市民が安心して生活するための環境整備などを行ってきました。また、市民活動の拠点であるまちづくり協働センターの整備や市民活動支援基本指針の策定により、市民活動の活性化を図るとともに、市民意見（パブリックコメント）の公募手続の制度化、附属機関等委員の市民公募基準の制定など、市民と行政との協働の仕組みを整えてきたほか、全ての人が目指す三田市のまちづくりの指針となる憲章を制定し、協働のまちづくりに取り組んできました。

【成果と課題】

- ・三田市は都市基盤・機能が整っています。
 - ⇒広域・市内の道路ネットワークが構築されており、こうした利点をまちづくりにおいて最大限に活用しなければなりません。
 - ⇒比較的短期間にニュータウンなどの整備を行ったため、これらを有効に活用するためには維持・更新を計画的に行っていくとともに、まちの魅力を維持するための継続した取り組みを行う必要があります。
- ・市内には関西学院大学神戸三田キャンパス、県立人と自然の博物館、湊川短期大学があり、高等教育・研究機関が充実しています。
 - ⇒これらの教育・研究機関と連携・協力しながらまちづくりを進めていく必要があります。
- ・本市の玄関口である三田駅は、市内のみならず近隣都市の交通拠点でもあることから、ポテンシャルが高く、近年では市街地再開発事業の施行等により商業拠点としての魅力も更に高まっています。
 - ⇒本格的な高齢社会を迎えるにあたって、三田駅周辺では都市基盤の集積をめざした中心都市核にふさわしい取り組みが必要です。
- ・NPOなどのテーマ型活動が活発化してきています。
 - ⇒これらのテーマ型活動と既存の地域活動や市行政等との効果的な連携・協力が必要です。

2 計画策定の趣旨

三田市は、これまで、3次にわたる総合計画に基づいて、穏やかな農村集落の小都市から多様な都市機能を備えたまちへと着実に成長をしてきました。

平成20年には、市制施行50周年を機に「三田まちづくり憲章」が制定され、私たちが目指すまちづくりの方向性を共有してきました。

三田まちづくり憲章

私たちは、すべての市民が誇りを持って、人と自然が輝くまち・三田を共につくるために、この憲章を定めます。

私たちは、

- 一、命を大切にし、互いに助け合う、心ふれあうまちをつくります。
- 一、誰もが元気で笑顔があふれる、希望に満ちたまちをつくります。
- 一、美しい風景を守り、自然と共に育つまちをつくります。
- 一、伝統を尊重するとともに、新しい市民文化のまちをつくります。
- 一、里の恵みを大切にし、未来につなぐ活力あるまちをつくります。

この憲章に示されたまちづくりの方向性をさらに確実なものにするため、この総合計画は、行政のみの計画としてではなく、市民と市が共有するまちづくりの目標とそれぞれの役割分担を定めるものと位置付け、市民と市が協働して取り組むまちづくりの方向性を明らかにすることとします。

3 計画の構成と期間

(1) 計画の構成

本計画は、「基本構想」と「基本計画」によって構成します。

「基本構想」には、すべての市民と市が共有する三田市の将来像を掲げることとし、市の取り組み（施策）の指針とするとともに、市民や事業者それぞれの活動の基本的な方向を明らかにするものとなります。

「基本計画」は、「基本構想」を具体化するために、市民、事業者、市など、まちづくりに関わるすべての関係者が取り組む各分野ごとの基本的な役割等を体系的に明らかにするものです。

具体的には、基本計画には、各分野ごとの市民、事業者、市行政が共有できる「取組目標」と「現状と課題」を踏まえた市民、事業者及び市行政の「取り組みの方向」を定めています。

(2) 計画の期間

基本構想については今後10年間のまちづくりの目標を掲げ、基本計画においては5年間の取り組みの方向について定めます。

基本構想 平成24年度～平成33年度

基本計画 平成24年度～平成28年度

なお、平成28年度には、社会経済情勢の変化等に対応するために検証し、基本構想と基本計画について必要に応じた見直し・検討を行う。

4 計画策定の背景

1. 三田市の特徴

(1) 地理的・自然的特性

三田市は、兵庫県の南東部にあり、神戸市の市街地からは六甲山系を越えて北へ約 25km、大阪市より北西に約 35km に位置します。北は篠山市、東は宝塚市、猪名川町に、南は神戸市、西は加東市、三木市に接しています。

市域は、東西約 20km、南北約 18km、総面積 210.22km²です。周辺部には山地が多く、北部から東部にかけて標高 500～700m の諸峰が連立し、南東部には耕作地のある三田盆地が開けています。市の西部から南東部にかけて武庫川が貫流し、肥沃な農地を潤しており、豊かな自然に恵まれています。

気候は、瀬戸内気候区に属していますが、盆地状の地形から内陸的な特性が強く、最低気温はかなり低くなるという特徴をもっています。また雨量は、年間降水量が 1,300mm 前後と比較的少なく、冬乾夏湿となっています。

三田市は、大都市近郊に位置しますが、豊かな自然に恵まれており、三田市の貴重な財産として豊かな自然を守り、活かす必要があります。

(2) 三田市の歴史

この地に人々が暮らし始めた歴史は、数万年前の旧石器時代にまでさかのぼります。

三田盆地には古くから豊かな水田が開かれたほか、木材や焼物の産地としても著名であり、奈良時代には現在の屋敷町周辺に、のちの金心寺につながる寺院が建立され、門前には「まち」も形成されたと伝えられています。

また室町時代の記録には「三田村」の名称がみえ、このころまでには「三田」の地名のほか拠点となる城郭もこの地に成立していたと考えられています。

戦国時代以降の三田は、城郭を拠点とする政治の中心的な都市としてのみならず、周辺の豊かな農村地域から供給される米や材木などの集散地として、流通・経済の中心としても発展してきました。江戸時代には三田藩九鬼氏および麻田藩青木氏の支配となり、三田の町は三田藩 3 万 6 千石の拠点として大いに繁栄します。さらに明治以降は郡役所の設置や鉄道の開通などにより、当時の有馬郡の中心地としてより一層の発展をとげています。

その後、昭和 31 年に藍村と本庄村が合併して相野町が成立、次いで、三田町、三輪町、広野村、小野

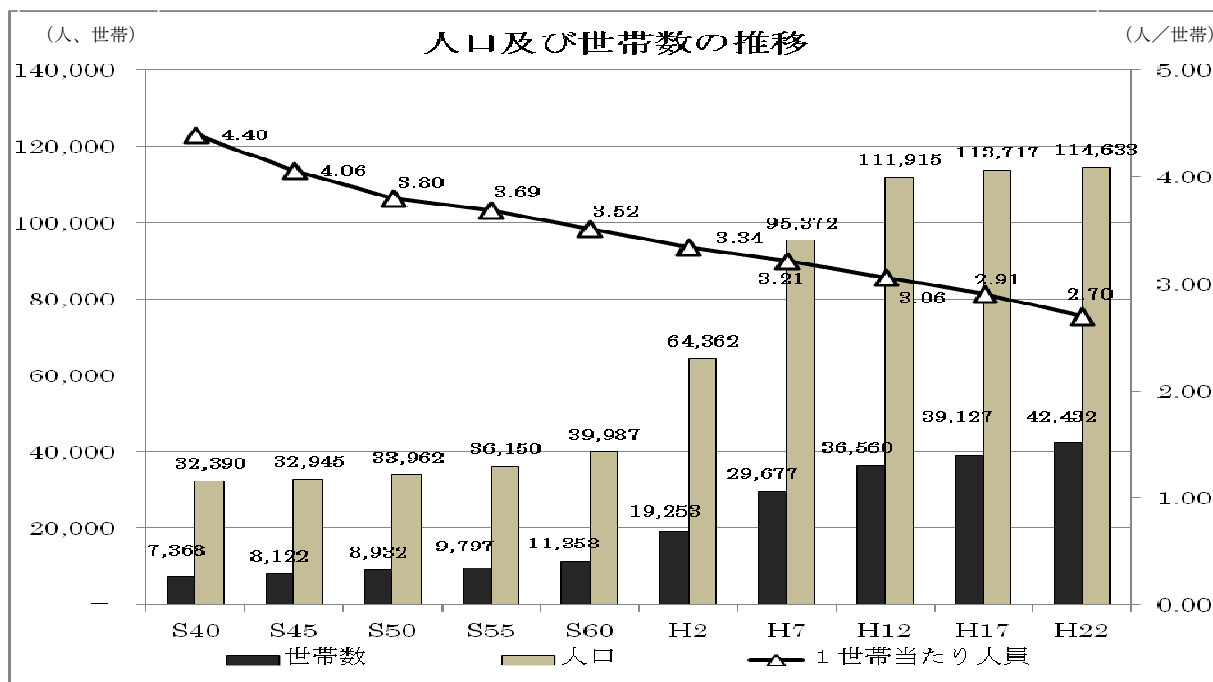
村、高平村が合併して三田町が成立し、さらに昭和 32 年に三田町が相野町を編入したのち、昭和 33 年 7 月に市制を施行しました。

三田市には、固有の歴史と文化があります。
⇒固有の歴史と文化を次代に引き継いでいく必要があります。

(3) 人口の動向

＜現在までの人口推移＞

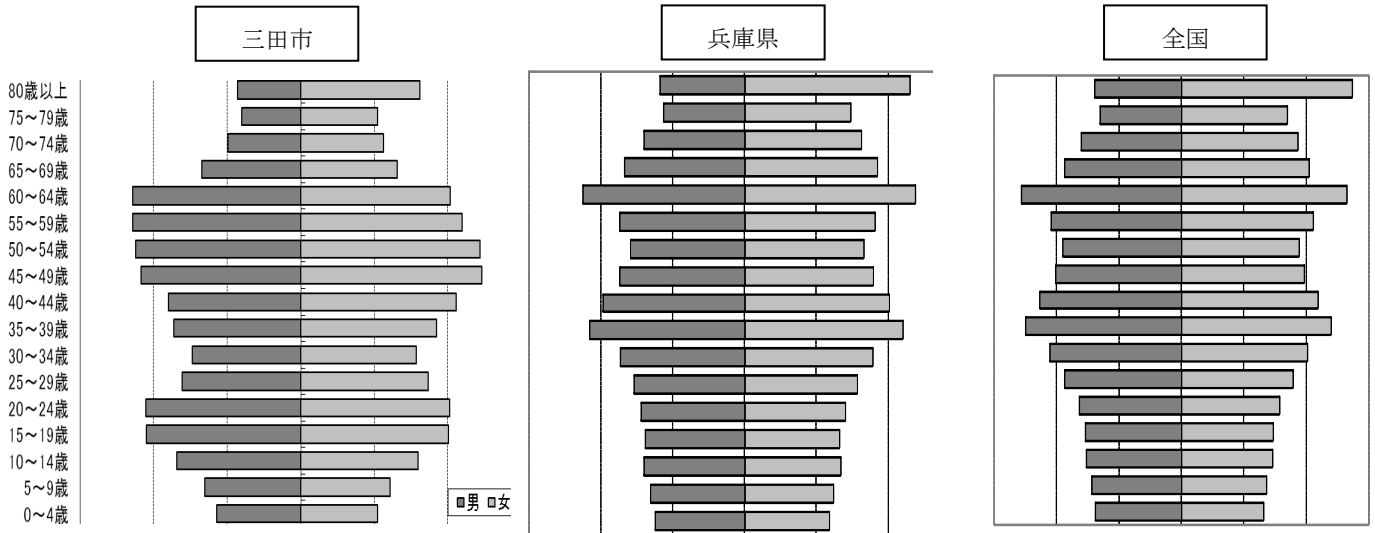
本市の人口は、昭和 33 年（1958 年）の市制施行時に約 32,000 人で、昭和 55 年（1980 年）頃までは微増で推移しました。昭和 56 年（1981 年）から、ニュータウンへの入居を皮切りに急激に人口が増加しました。特に、昭和 62 年（1987 年）から平成 8 年（1996 年）まで 10 年連続で人口増加率日本一となりました。平成 12 年（2000 年）以降も、微増の傾向を示しており、平成 23 年 3 月末現在の人口は 114,636 人となっていますが、一方で 1 世帯当たり人員は減少傾向にあります。



※各年 10 月 1 日現在の人口（ただし、昭和 40 年及び昭和 45 年は 12 月末日の人口）

<人口構造>

年齢階層別の人口構成をみると、国と兵庫県はほぼ同じ形となっており、三田市では40歳から60歳代に厚みがあることが特徴となっています。これは、ニュータウン住民の影響と考えられ、本市で今後急速に高齢化が進行することが予測されます。また、全国的に少子化といわれていますが、三田市でも明らかに子ども世代が減少しています。

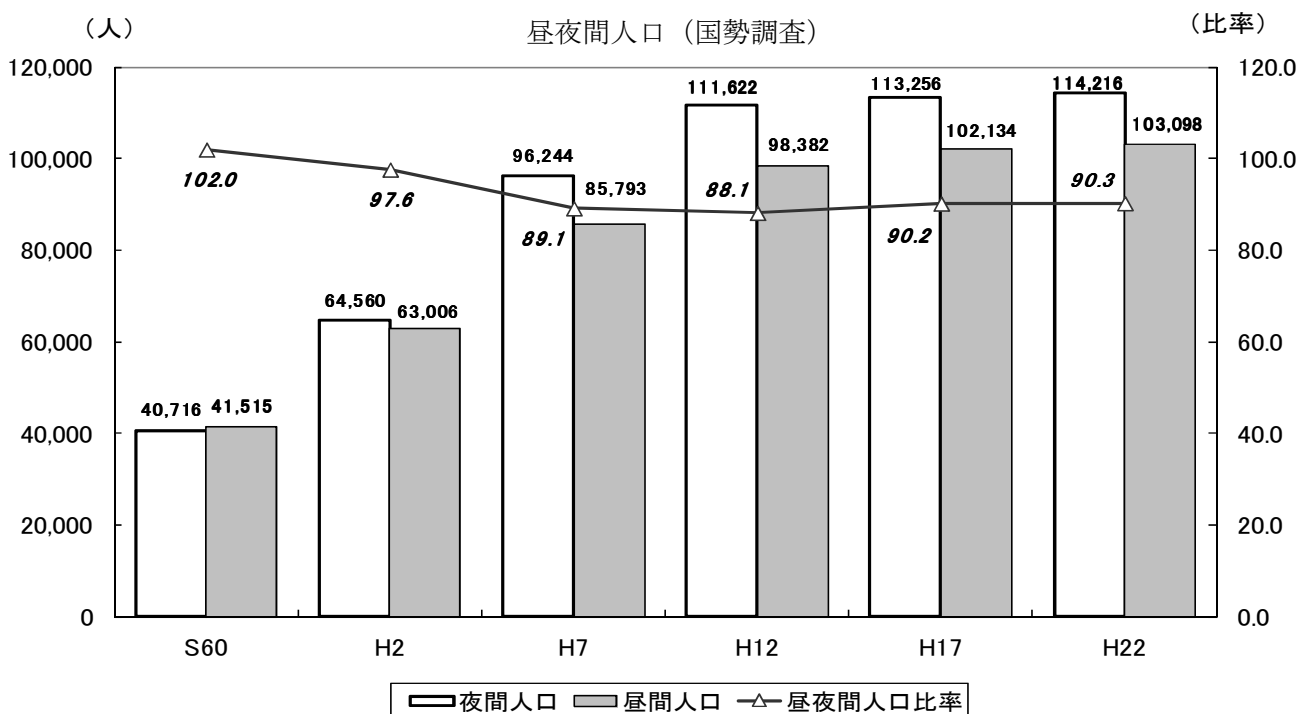


(平成 22 年度末)

<人口の動き>

平成 22 年 (2010 年) の従業・通学による市外との流出入状況をみると、流出口 30,521 人に対し、流入人口は 19,403 人で流出超過となっています。

また、夜間人口 114,216 人に対して昼間人口 103,098 人で、昼夜間人口比率は 90.3 となっています。近隣都市と比較しても、昼夜間人口比率は高くなっています。このことから、本市は、住宅都市としての機能と従業地・通学地としての機能の二面性を有するまちであると分析できます。



<人口推計>

わが国の総人口は、平均寿命の上昇傾向が続く一方で、合計特殊出生率は低水準で推移し、平成16年（2004年）をピークに減少に転じています。今後もこの傾向は継続し、国立社会保障・人口問題研究所推計（平成24年1月）によると平成72年（2060年）には8,674万人となり、約40%が65歳以上になることが予想されています。

三田市においても、現在の推計では、平成29年度末には約117,000人に達するものの、それ以降は減少傾向になると見込まれています。

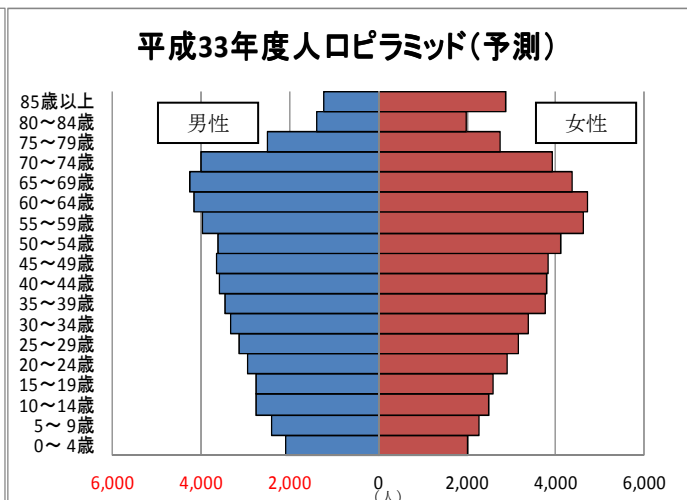
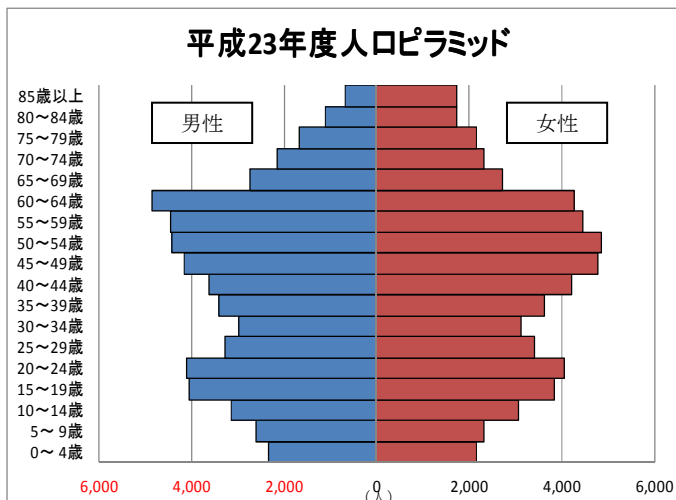
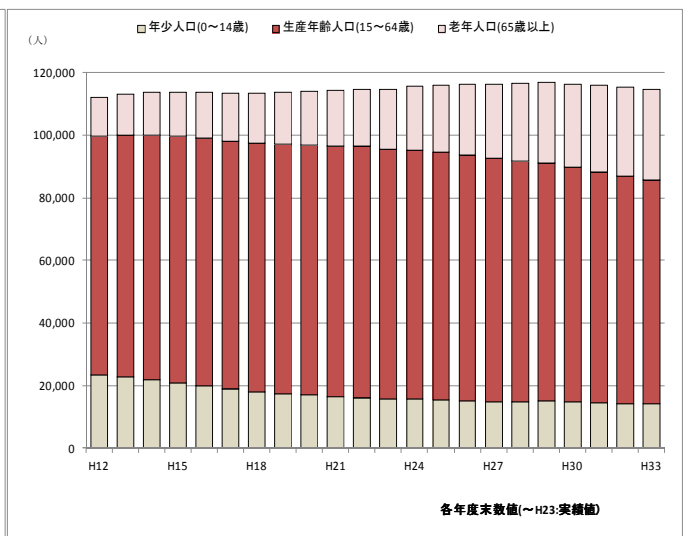
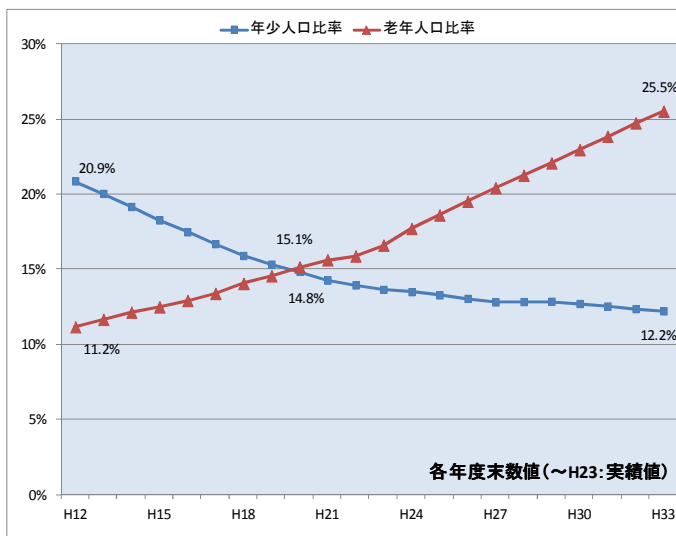
また、人口に占める65歳以上の老年人口比率は、平成13年（2001年）3月末には11.2%（全国平均18.0%）であったものが、平成20年度末には老年人口比率15.1%となって年少人口比率14.8%との割合が逆転しました。平成33年度末には25%を超え、4人に1人が高齢者となることが見込まれ、生産年齢人口の割合が減少することが懸念されます。

・人口構造の変化による労働力人口の減少とあわせて、医療や介護需要の増加などの課題が生じるものと思われま。

⇒地域の活力を維持するために、地域の担い手の確保・育成が欠かせません。

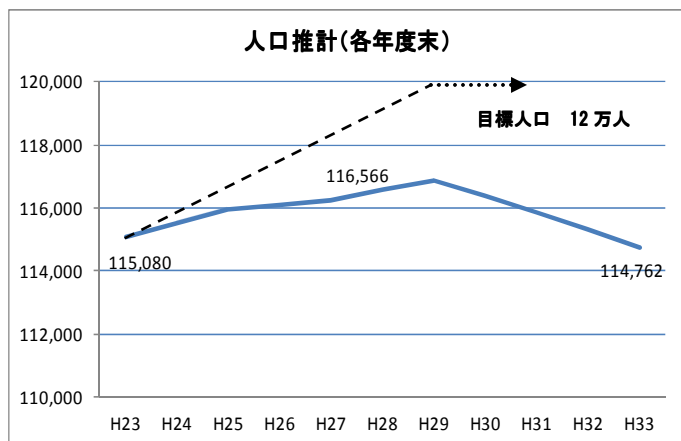
⇒持続可能な地域をつくるためには、子どもが育ちやすい環境づくりが重要です。

⇒「団塊の世代」など、豊かな経験や能力を持った人々の地域活動への参加が求められます。



<目標人口>

中長期的には人口減少となるこの人口推計を前提としつつ、目標人口については、三田駅周辺の高度利用やニュータウンなど宅地ストックへの人口流入を着実に進めるとともに、にぎわいの創出と人口の流出抑制に努め、基本構想の計画期間内に人口 12 万人を目指します。



地区別人口推計（各年度末）

	H23	H28	H33
三田地区	13,237	13,952	14,008
三輪地区	16,172	15,948	15,583
広野地区	6,457	6,314	6,129
小野地区	2,577	2,359	2,147
高平地区	3,643	3,339	3,036
藍地区	11,194	10,127	9,181
本庄地区	2,589	2,406	2,221
フラワータウン地区	23,629	22,762	21,932
ウッディタウン地区	33,013	36,783	37,944
カルチャータウン地区	2,569	2,576	2,581
合計	115,080	116,566	114,762

<参考>

第4次総合計画策定にあたっての人口推計について

1 人口推計結果

三田市の人口は、平成 29 年度末に 116,882 人でピークを迎え、その後緩やかに減少していくと予測される。計画の目標年次である平成 33 年度末の人口は、114,762 人と推計される。

2 人口推計の方法

平成 18 年 3 月 31 日及び平成 23 年 3 月 31 日の各時点における各地区の 5 歳階級別人口をベースに推計を行った。推計方法としては、各時点の社会移動の趨勢による推計（趨勢型）と社会移動がないと仮定する推計（封鎖型）とがあるが、本市では、各地区ごとの特性に応じて、次のとおり地区ごとに人口を推計し、積み上げを行った。

(1) 趨勢型推計（小野地区、高平地区、藍地区、本庄地区、フラワータウン地区）

推計のベースとなる H18～23 年の人口動向が減少傾向であり、住宅等開発予定がなく、人口減少が継続すると予想される地区に適用

(2) 封鎖型推計（三輪地区、広野地区、カルチャータウン地区）

推計のベースとなる H18～23 年の人口動向が減少傾向であるが、住宅等開発予定があり、人口減少が抑制されると予想される地区に適用

(3) 趨勢型・封鎖型推計併用（三田地区、ウッディタウン地区）

推計のベースとなる H18～23 年の人口動向が増加傾向であり、住宅等開発予定があるが、人口定着の増加率が逡減すると予想される地区に適用

開発動向等より、三田地区については平成 25 年度まで、ウッディタウン地区については平成 29 年度まで人口増を見込み、それ以降は見込まない。

	人口推計（各年度末）
H22 年度	114,636（実績）
H23 年度	115,080
H24 年度	115,512
H25 年度	115,945
H26 年度	116,089
H27 年度	116,247
H28 年度	116,566
H29 年度	116,882
H30 年度	116,369
H31 年度	115,838
H32 年度	115,311
H33 年度	114,762

(4) 産業構造

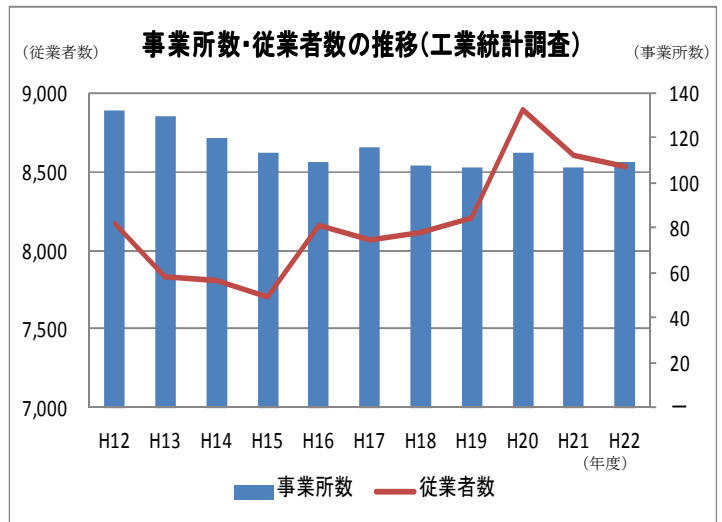
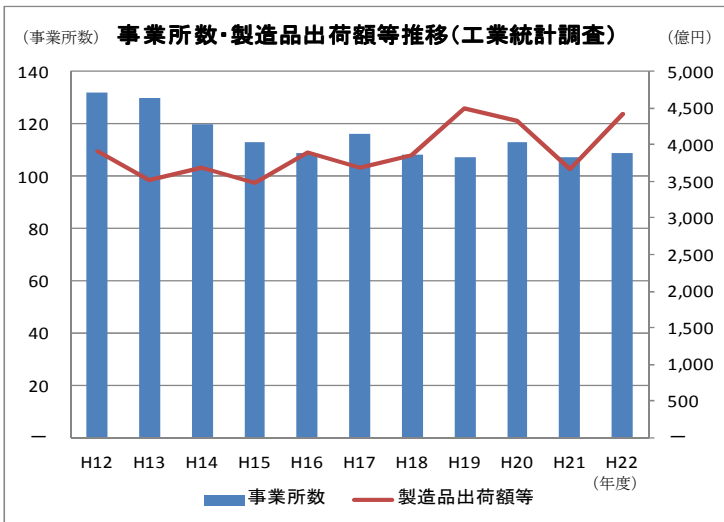
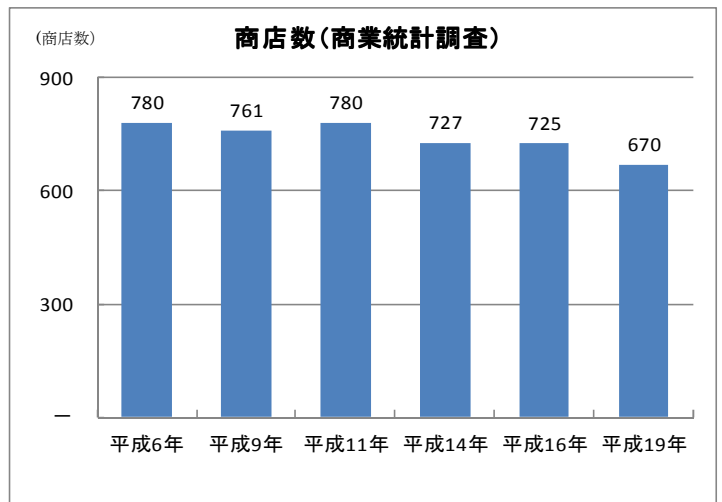
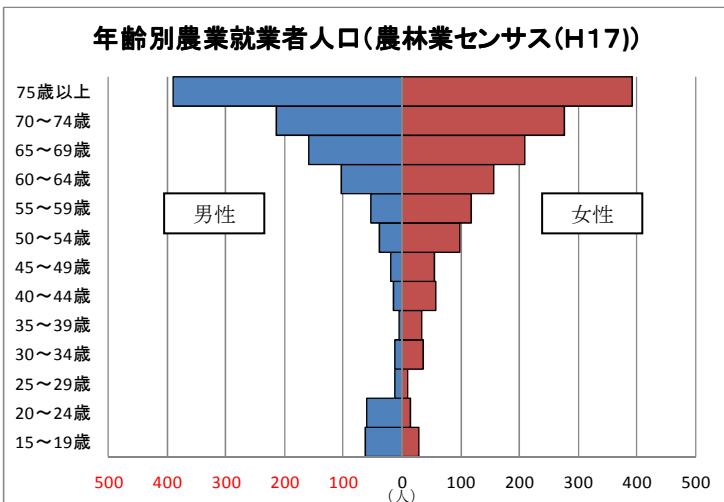
三田市の農業振興地域は、市域面積の20%を超え、阪神地域でも最も農業が活発な地域のひとつであり、質の高い多様な農産物が生産されています。また、農業は、自然環境の保全、安全な食の供給、交流などに大きな役割を果たしています。

また、市内には、製造業を中心とした大規模工業団地が存在し、現在も、第二テクノパークの開発が進むなど、生産活動のみならず働く場所としての魅力も高く、地域経済の重要な拠点のひとつになっています。

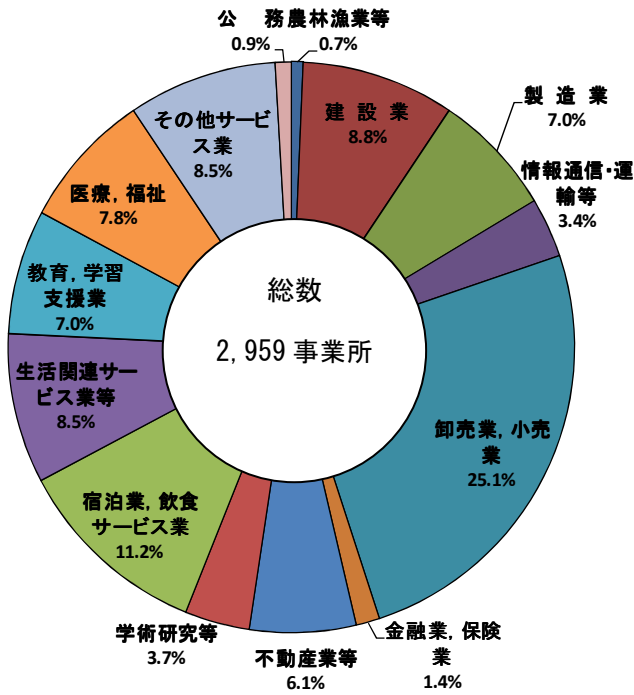
商業については、市内外の大規模店舗の出店等により、既存の商店街などが衰退し、商店数は減少傾向にあり、寡占化が進んでいます。

事業所数は、商業（卸売・小売）が最も多く、約25%を占めますが、従業者数は、製造業が最も多く約23%を占めます。地域別では、テクノパーク及び三輪地区で従業者数の約8割、出荷額の約9割を占めています。

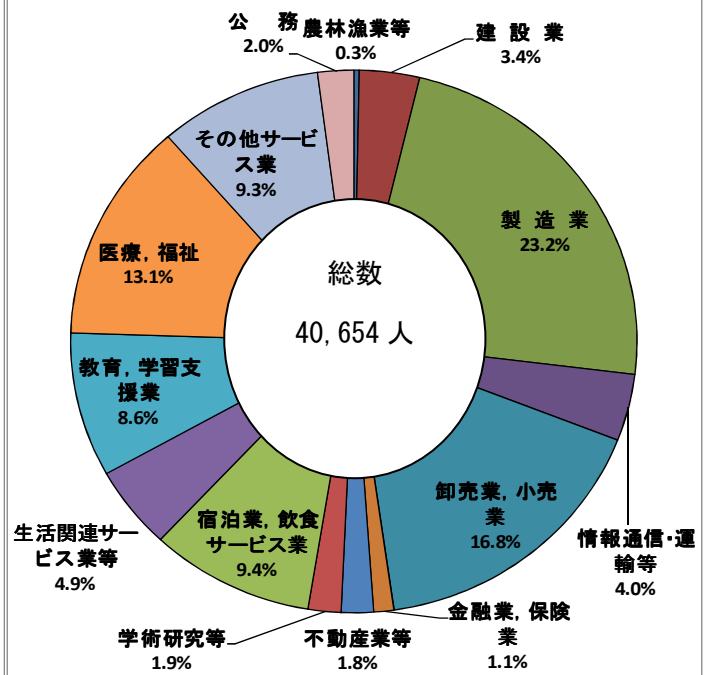
- ・ 農業や商業では、従事者の高齢化が進み、後継者が不足しています。
- ⇒ 三田市の農業は、農作物の生産等のみならず、豊かな自然環境を支える重要な産業としてふさわしい取り組みが必要です。
- ⇒ 三田市の商業は、高齢化の進展による生活圏の縮小等に対応できる自立した基盤の確立が求められます。



産業大分類別事業所割合(経済センサス基礎調査(H21))



産業大分類別従業者割合(経済センサス基礎調査(H21))



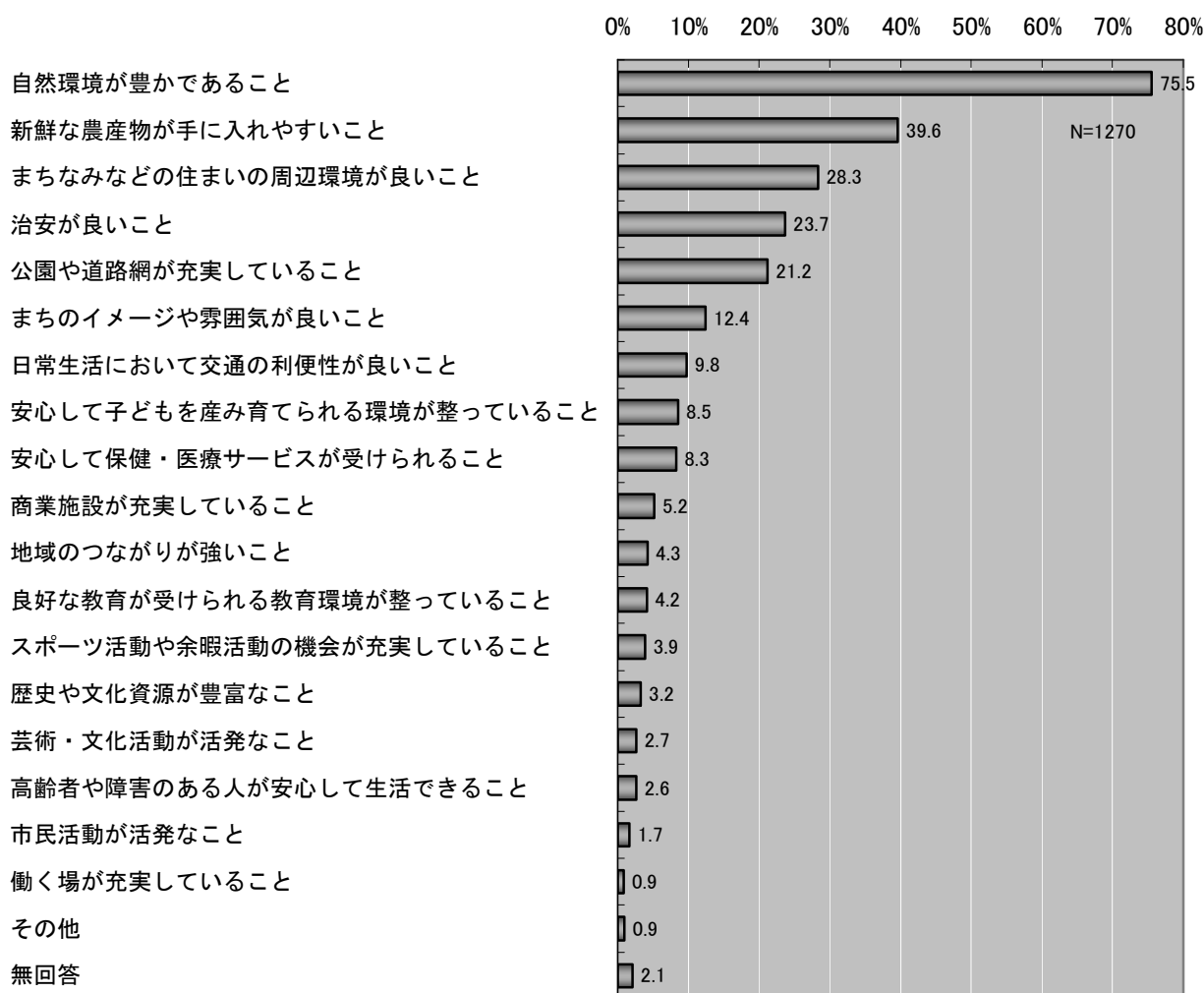
2. アンケート等に見る三田市の現状及び課題

(1) 市民アンケート

ア 三田の良さとして印象の強いもの

あなたは、三田の良さはどんなことだと思われますか。次の中から、印象の強いものを選んでください。

三田市の良さとして印象の強いもの	三田市の良さとして印象の弱いもの
自然環境が豊かであること ……75.5%	高齢者や障害のある人が安心して生活できること ……2.6%
新鮮な農産物が手に入れやすいこと…39.6%	市民活動が活発なこと ……1.7%
まちなみなどの住まいの周辺環境が良いこと ……28.3%	働く場が充実していること ……0.9%

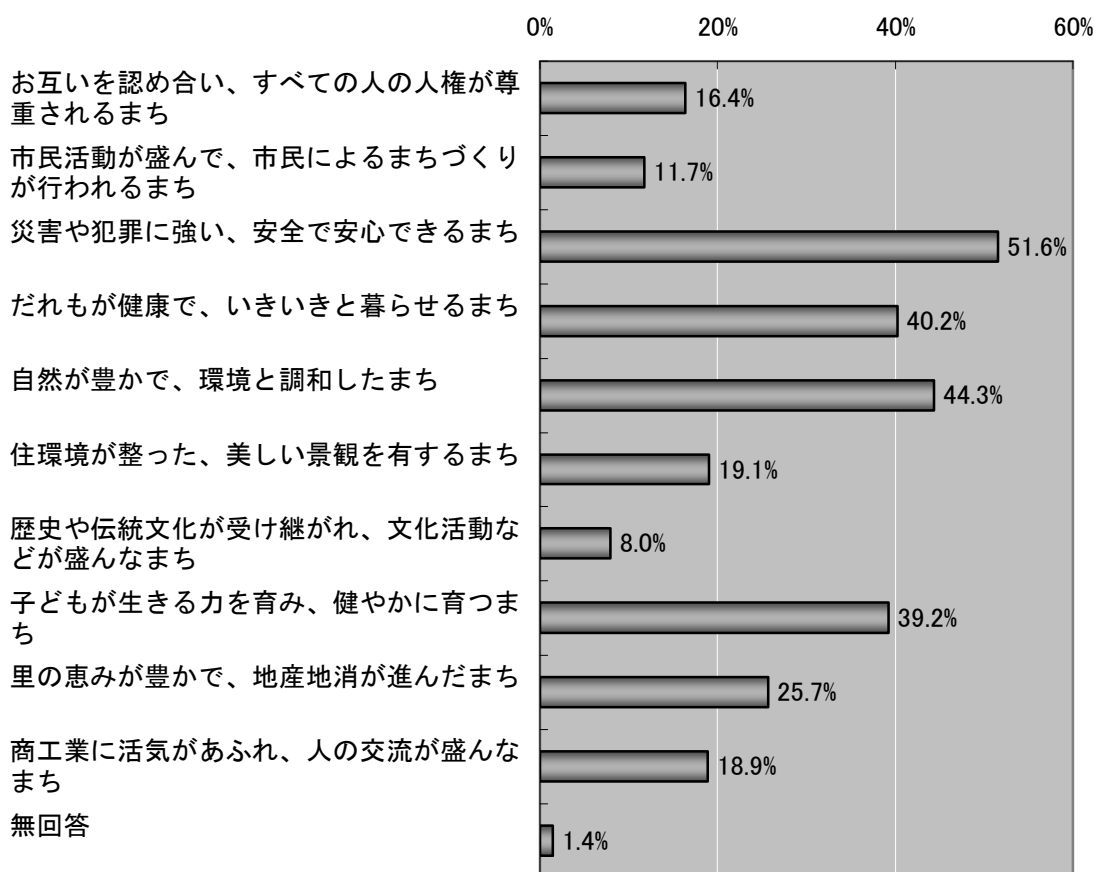


イ 10年後の三田をどんなまちにしていけるべきか

あなたは、三田の良さを活かして、10年後の三田をどんなまちにしていけるのがよいと思われますか。次の中から特に大切だと思われるものを選んでください。

【上位5つ】

- 災害や犯罪に強い、安全で安心できるまち 51.6%
- 自然が豊かで、環境と調和したまち 44.3%
- だれもが健康で、いきいきと暮らせるまち 40.2%
- 子どもが生きる力を育み、健やかに育つまち 39.2%
- 里の恵みが豊かで、地産地消が進んだまち 25.7%



【実施方法等】

対象	無作為で抽出した16歳以上の市民 3000名
期間	平成23年1月20日～2月7日
回収状況	1,270通(42.3%)

(2) さんだの夢・未来を描くワークショップ

<ワークショップで憲章の項目ごとに提案されたまちの将来像>

1. 命を大切に、互いに助け合う、心ふれあうまち

- ①全ての市民（高齢者）が安心して暮らせるシステムづくり
- ②市民がまちづくりの主役になる
- ③市民がお互いに思いやることができるまち
- ④つながる愛(いと)おしいまち三田（メインテーマ）
- ⑤コミュニティのネットワークの整ったまち
- ⑥農・商・観光の生きづく職住都市
- ⑦安全・安心をやさしく育むまち

2. 誰もが元気で笑顔があふれる、希望に満ちたまち

- ①若者が退屈することなく、就職率が高く、将来戻ってきてても住みやすい町になっている。
- ②最多人口世代となる60～70歳台の人が地元でイキイキ働ける街になっている。
- ③高齢期を迎えられた方、介助や介護が必要になられた方が元気で安心して暮らしている。
- ④人々のふれあい・交流の深まりに、地域の防災・防犯が支えられ、だれもが孤立することのない地域社会がつくられている。
- ⑤三田市民病院の救急医療体制が充実している。
- ⑥三田には『安全・安心なうまいもんあり！』というイメージができています。
- ⑦三田はスポーツがとてさかんだというイメージができています。
- ⑧人がつながって外からも来てくれるまち
- ⑨誰もが（子どもからお年寄りまで）安心して住み続けることができるまち
- ⑩居場所＝1人ひとりの役割があって元気で希望のあるまち

3. 美しい風景を守り、自然と共に育つまち

- ①外から人を呼びたくなる目玉をつくる
- ②ふれあえる 身近な自然をさらに魅力アップする
- ③豊かな暮らしの風景を演出する
- ④心をこめて美観を耕すまち～自然環境、まちなみ、人の意識～

4. 伝統を尊重するとともに、新しい市民文化をつくるまち

- ①歴史文化の良さははっきりさせて知名度を上げる
- ②多様な交流を進める
- ③安心して過ごせる、勉強できる三田の学校づくり
- ④あらゆる世代が安心して生活できるまちづくり
- ⑤三田をPRする
- ⑥歴史・文化遺産に学び自分を高めましょう
- ⑦地域の食材を皆で料理して皆で育つまち～食材は自分でつくろう！！～
- ⑧若者が戻ってくるまち～ナンバー2をいっばいつくろう！！～

5. 里の恵みを大切に、未来につなぐ活力あるまち

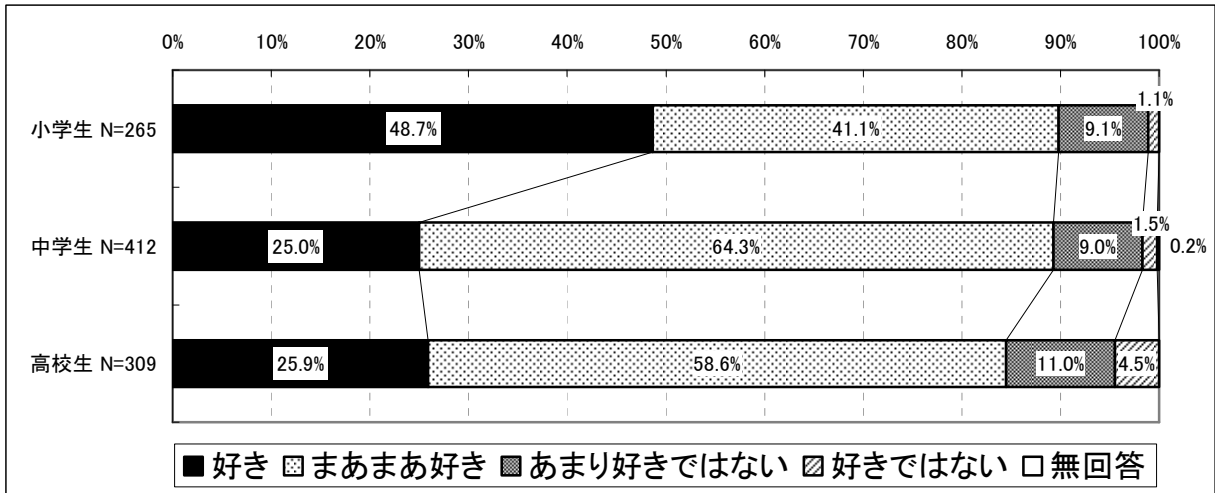
- ①持続する農業のために 新しい担い手
- ②既存集落住民とニュータウン住民の協働 人と人の関係を築く
- ③付加価値をつけた自然の活用 三田市に存在するあらゆる資源の総合的活用による新たな活性化
- ④本気で取組む 市民、行政共に本気でまちづくりに取組まなければ計画の実現は困難
- ⑤魅力ある職住環境の中で、みんなが安心して元気で働ける街を目指そう！！
- ⑥暮らしを豊かにする農業を目指そう！！
- ⑦身近なお店を充実し安心して暮らせる街を目指そう！！
- ⑧現状に見合った土地利用を目指そう！！

【実施方法等】

目 的	<p>1 次期総合計画を市民が共有できる計画にするために、市民の皆さんが普段感じておられることや、思いを活かす機会を設けること。</p> <p>2 日頃、三田市の現状や将来のまちづくりについて議論する機会が少ない市民の皆さんにも将来のまちづくりについての議論に参加していただくこと。</p>	
対 象	市民アンケート実施の際に無作為に抽出した方々によびかけ	
開 催 日	平成23年3月5日（土）6日（日）（2日間）	
参 加 者	3月5日 66名、3月6日 63名	
実施内容	第1日	<p>1 これまでの三田市のまちづくりについて紹介</p> <p>2 各班で、各テーマにおける三田の良い点と良くない点についての話し合い</p> <p>3 各テーマにおける目標（未来像）とそれを実現する手段についての話し合い</p>
	第2日	前日の話し合いに基づき、各班ごとに発表 市長との意見交換等

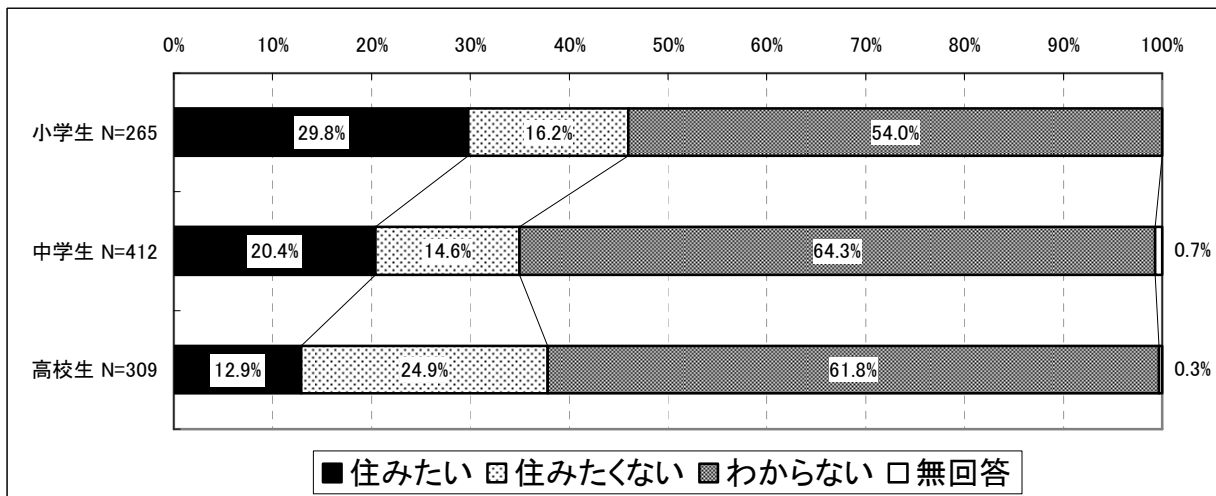
(3) 小学生・中学生・高校生アンケート

<あなたが住んでいる三田のことが好きですか。>



	好きな理由(主なもの)	好きでない理由(主なもの)
小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・自然がいっぱいあるから・・・37件 ・人がやさしいから・・・12件 ・空気がきれいだから・・・8件 ・友達がたくさんいるから・・・8件 ・遊び場所やお店があるから・・・8件 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶところが少なく楽しくないから ・ポイ捨てが多いから
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・自然がたくさんあるから・・・51件 ・便利だから・・・7件 ・住みやすいから・・・7件 ・人がやさしいから・・・6件 ・緑がたくさんあるから・・・4件 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物が不便だから ・田舎だから ・有名なものがないから
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・自然がたくさんあるから・・・21件 ・住みやすい、落ち着くから・・・7件 ・田舎だから・・・6件 ・空気がきれいだから・・・5件 ・友達がたくさんいるから・・・4件 	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎で何も無いから

<あなたは、大人になったとき三田に住みたいですか。>



<あなたが、三田市の市長になったとしたら、どのようなまちにしたいですか。>

小学生	・自然がたくさんあるまち	・・・35件	・人と人がふれあえるまち、つながりのもてるまち	・・・12件
	・みんながあいさつするようなまち	・・・19件	・ごみの落ちていないまち	・・・11件
	・明るいまち、元気なまち	・・・19件	・みんなで協力し合えるまち	・・・9件
	・楽しい、楽しめるまち	・・・16件	・森や緑の多いまち	・・・8件
	・きれいなまち	・・・13件	・安全、犯罪のないまち	・・・8件
	・やさしいまち	・・・12件	・スポーツの盛んなまち	・・・8件
中学生	・自然が多い、自然を大切にするまち	・・・50件	・仲良く協力できるまち	・・・18件
	・住みやすいまち	・・・36件	・ごみが落ちていないまち	・・・16件
	・明るいまち	・・・30件	・今のままにしたい	・・・16件
	・きれいなまち	・・・28件	・平和なまち、平等なまち	・・・13件
	・楽しいまち	・・・24件	・緑が多いまち	・・・12件
	・安全で安心なまち	・・・21件	・あいさつできるまち	・・・11件
高校生	・きれいで美しいまち	・・・25件	・安全で安心なまち	・・・12件
	・自然が豊かなまち	・・・21件	・商業を発展させる	・・・10件
	・住みやすいまち	・・・20件	・平和なまち	・・・8件
	・楽しいまち	・・・19件	・今のままで良い	・・・8件
	・明るいまち	・・・13件	・わからない	・・・8件
	・便利なまち	・・・12件	・お祭り、イベントを増やす	・・・7件
	・元気、活気のあるまち	・・・12件	・ごみの落ちていないまち	・・・6件

3. 社会潮流

今後の日本は、少子高齢化の一層の進行により人口の減少傾向が続くと見込まれます。加えて、以下のような社会潮流に対応していくことが求められます。

(1) 安全・安心がより重視される時代

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、未曾有の被害をわが国に与えました。これを契機として、住民の最も基礎的なニーズである安全・安心に対する関心が高まり、自分たちで災害から生命や財産を守ることの重要性が再確認され、地域コミュニティのあり方が問われることとなりました。また、近年では、食品の産地偽装や、振り込め詐欺といった犯罪の増加など、生活における不安感が高まっており、地産地消の推進や防犯意識の向上などすべての人が安全に安心して暮らすことのできる生活環境が求められています。

(2) 持続可能な循環型社会への対応

大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした社会経済システムは、世界人口の増大や経済成長を背景に、温暖化など自然環境負荷の増大や化石燃料をはじめとするエネルギーの枯渇、水不足、食糧危機など、地球規模での環境問題の原因ともなっています。また、東日本大震災に起因する福島第一原子力発電所の事故は、われわれの暮らしにおけるエネルギーのあり方について国全体で考えなければならぬことを認識させました。

ごみの減量や再資源化等を通じて自然環境の保全・再生・活用に取り組むとともに、再生可能エネルギーの活用など、暮らしのあらゆる側面において、持続可能な循環型社会をつくっていくことが重要になっています。

(3) ライフスタイルや価値観の多様化

単身世帯や高齢者世帯の増加など家族の状況や社会環境の変化により、ライフスタイルが多様化するとともに、価値観や住民ニーズも多種多様になっています。個人の意識も、「ワーク・ライフ・バランス」など、物質的な豊かさから心の豊かさを重視し、量から質を求める方向へ変化しています。誰もが自分らしく生活し、定年後のシニア世代などが知識と経験を活かして自己実現できる環境づくりが求められます。

(4) 多様性を認め尊重する社会

多様な人々が課題解決に参加することによって、多様な解決手法が模索され、よりよい解決へつながることから、近年、多様性の重要性が再認識されています。年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、すべての人が参加・参画し、能力を最大限に発揮することができるユニバーサルな社会づくりが求められています。

(5) 生活圏の変化への対応

公共交通機関の整備、広域道路網の整備等による車社会化により、人々の生活圏が格段に拡大し、都市の境界を越えた機能分担が進む一方で、地方都市においては既存の商業の衰退等を招いています。今後は、高齢化の進展により車社会からの脱却も進むと考えられ、他都市の機能へ過度に依存することは、将来において人々の日常生活にも支障が生じかねません。高齢者や障害者などの移動制約者へ配慮し、誰もが住みなれた地域で生活できるよう、生活圏の変化に対応した都市機能の維持などを図る必要があります。

5 第4次総合計画におけるまちづくりの基本方向等

三田市の特性や三田市を取り巻く状況などを踏まえて、次のとおりまちづくりの基本目標を確認するとともに、私たちが目指す10年後のまちの将来像を定めます。

1. まちづくりの基本目標

心のふれあう田園文化都市

本市では、第1次総合計画以来、基本目標として「心のふれあう田園文化都市」を掲げ、地域間の調和を前提に、自然を生かしたより良い環境のもとで、市民が安心して住み、働き、学び、憩うことができるまちづくりを目指してきました。

このことは、三田市を取り巻く社会潮流や成熟期を迎えた三田市の現状を踏まえても、引き続き重要であることは変わりません。今後も、地域特性を活かしつつ、三田市全体での調和と交流を進めることが必要です。そこで、第4次総合計画においても、これまでの3次にわたる総合計画の基本目標であった「心のふれあう田園文化都市」を基本目標と位置づけることとします。

2. まちの将来像(都市像)

ひと・まち・自然が輝く三田

私たちが暮らす三田市は、これまでのまちづくりの成果として、次のような大切な財産を有しています。

【ひと】

- ・地域をつくるのはそこに住み、働き、学ぶ人たちの活動であり、結びつきです。市民一人ひとりが人権を尊重し、共に生きることを基本として、それぞれがまちを思い、知識や経験をまちづくりに活かしながら、互いに交流し、支えあうことで、これまで以上に魅力あふれるまちや地域が実現できます。

【まち】

- ・三田市にはこれまでのまちづくりにより、都市機能が集積されており、近隣都市にとっても都市機能の中核を担っているものが多くあります。また、農村地域や既成市街地には地域固有の文化が育まれています。これらを効果的に維持・充実・活用することで、まちはさらににぎわうとともに、市の内外に対して三田市の魅力を発信し、多くの人々が交流する拠点にもなります。

【自然】

- ・三田市は大都市近郊にありながら豊かな自然に恵まれています。水や緑は、私たちの生活に潤いをもたらすばかりではなく、生物多様性の維持にとっても不可欠であり、豊かな農作物の生産にも欠かせません。このように良好な自然は、私たちがよりよく生きるために欠かすことのできない財産です。この豊かな自然を守り、その恵みを市民が享受し、市内外の人々と交流することで三田市の魅力はさらに高まります。

私たちは、先人達が守り、育んできた「ひと・まち・自然」の魅力をさらに高め、輝かせることによって、本市を取り巻く環境の変化に適切に対応する必要があります。そして、様々な課題を確実に克服し、次の世代に誇るべきまちとして、引き継いでいかなければなりません。

そこで、市民と市が情報共有を図りながら、協働してまちづくりに取り組み、活力のある、住みたい住み続けたいまちを目指して、「ひと・まち・自然が輝く三田」を計画期間内のまちの将来像（都市像）とします。

